

葦屋の処女の墓に過る時に作る歌一首 并せて

短歌

一八〇一番

古の ますら壮士の 相競ひ 妻問ひしけむ

葦屋の 菟原処女の 奥つ城を 我が立ち見れば

永き世の 語りにしつ 後人の 偲ひにせむと

玉梓の 道の辺近く 岩構へ 作れる塚を 天雲

の そきへの極み この道を 行く人ごとに 行

き寄りて い立ち嘆かひ 或る人は 音にも泣き

つつ 語り継ぎ 偲ひ継ぎ来る 処女らが 奥つ

城所 我さへに 見れば悲しも 古思へば

反歌

一八〇二番

古の 小竹田壮士の 妻問ひし 菟原処女の

奥つ城ぞこれ

一八〇三番

語り継ぐ からにもここだ 恋しきを 直目に見

けむ 古壮士